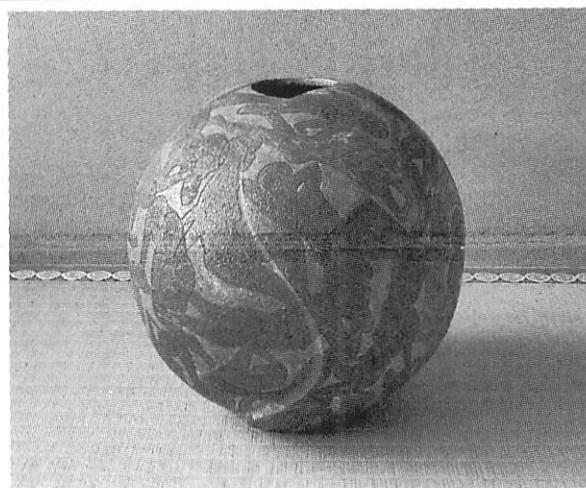


## 光風会展で7年連続入選

志野焼きの  
オブジェで  
館山の 笹子さん

全国から絵画や工芸作品を集める公募展「第100回記念光風会展」で、館山上真倉の 笹子三喜（55）が入選した。昨年は「軍慰安婦に捧ぐ」。制作について「かにた婦人のオブジェ「心包む」（高村の創設者・深津文雄牧）が入選した。昨師は自らを『底点の人』

と呼び、悲惨な女性の人たち。牧師は「くなつたが、生を貢つ向から受け止め 館山にすごい男がいたこと」と呼び、悲惨な女性の人た。牧師は「くなつたが、生を貢つ向から受け止め 館山にすごい男がいたこと」と笹子さん。



笹子さんが制作した「心包む」

多摩美術大学多摩芸術学園で陶芸を学び、家業の木工所を継ぎながら自宅に「海山坊窯」をかまえ作陶に励み、陶歴は35年。 笹子さんは「たくさんつくるより、これはといえるものを仕事の合間につくっている。今後もメッセージのある作品をつくりていきたい」と話していた。

光風会公募展は、今月29日（22日は休館）まで東京・六本木にある国立新美術館で開かれている。

と覚えておきたい。そ  
う思ふひとりとして、こ  
の作品を館山から発信し

房田 2014.4.17